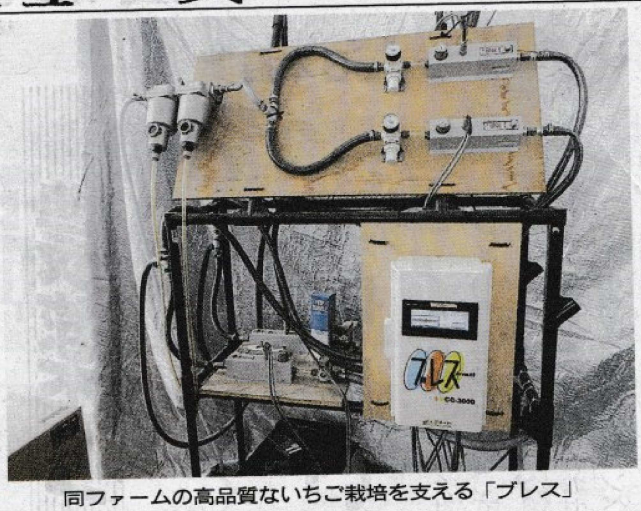
ニュース　第2993号　（昭和31年6月25日第三種郵便物認可）　（週刊）

CO_2局所施用コントローラー

テヌート 食味・収量もアップ

神戸市のすまいるふぁーむ藤本

神戸市北区は、いちごの産地として知られ、いちご狩り、直売所なども好評だ。大沢町にある「すまいるふぁーむ藤本」で作られるいちごは、あきひめをはじめ、紅ほっぺ、おいCベリーなど、多品種。これらは、甘みや風味の良さからリピーターが絶えない。同ファームを経営する藤本耕司さんは、いちご栽培について、「光合成が不可欠」と話す。その藤本さんのいちご栽培を助けているのは、テヌートのCO_2局所施用コントローラー「ブレス」だという。



同ファームの高品質ないちご栽培を支える「ブレス」

すまいるふぁーむ藤本では、いちご狩り農園、直売所を営む。代表の藤本耕司さんは「どれもお客様の要望に応えて作っている。いちご狩りの他、直売所に並べていることもあり、お客様の声がダイレクトに返ってくる。直売所開設当初、いちごは売っていなかったが、冬場のメインで直売所に並べるものを考えたときにいちごを作り始めた」。

藤本さん

藤本さんは、大学卒業後、一般企業に就職し、そこから家業である農家を継いだ。「いちごを作りはじめたのは私が就農してから。直売所も、ちょうどそのタイミングで始めたが、いちごは出すとすぐに売り切れた。栽培の面積もそれに合わせて増やしていった。いまは、いちごは育苗園を含め44a、本圃30aで年間で約2万kg収穫できている」と話す。

いちご栽培は、手間をかけた分だけ収量や食味に影響する。栽培するうえで、色々と工夫することは多いが、いまは、テヌートのCO_2局所施用コントローラー"ブレス"を使い、光合成を最大にするにはどうすればいいか考えた栽培を行っている。

「ブレスは3年前に導入したが、使い始めて収量は約1割増え、食味も良くなった。特に食味で言えば、春先以降、少しも水っぽくなりやすかったが、それを防いでくれていて、安定した品質になった」。

ブレス導入前は、化石燃料を使うCO_2施用機を使用していたが、春先になると、ハウスの開閉で温度、CO_2を調整するなどのため、CO_2の無駄や濃度ムラが悩みのタネになっていた。

たまたま展示会で、ブレスの局所施用を知り、導入した。ブレスに変えてからは、CO_2の無駄も減り、コストも下がったと話す。また、藤本さんは「いちごは、群落内でCO_2を閉じ込めやすい。局所施用だと効率的にCO_2を吸収してくれる。さらにブレスだと、空気との併用制御ができるから、CO_2の濃度を調整できる。空気で調整しないとこの面積だとガスボンベがいくらあっても足らない。それもコストダウンになっている」という。

藤本さんは、今後について「いまの面積で収量はまだ増やせると思う。また、もっと自動化を進め、効率化をめざしたい」と更なる高収量化への意欲を示した。

◇

CO_2局所施用コントローラー『ブレス』はCO_2を配管に通して葉裏などの気孔がたくさんある局所に施用し、濃度によってCO_2の量がコンピューター制御により自動で適切に施用される仕組み。無駄がなく安定的に光合成が行われるため、コスト削減も期待できる。CO_2濃度、温度、湿度のデータの他、使用したCO_2ガス量や設定値も記録できる。

テヌートが取り扱う『ブレス』の問合せ先は、contact@tenuto.co.jp。

年間通して定植苗・親苗栽培

東興罐産 栃木県真岡市の大塚育苗園

いちご生
栃木県。
幅に伸び
としても
を入れて
市の大塚
ちご生産
ごの苗を
んどが、
ばれる苗
をはらい
通し定植
せて約25
同園の大
高設栽培
ッドの部
扱うシー
ーカン栽
年6月に
取り組ん
大塚さ
前、当時
苗栽培を
培してい
とちおと
ーの2品
は、すべ
から各生
れている
大塚さ
生産者か

くないんだ」という声